

## H22.1月号掲載

今月のわが町じまんは、別所町に受け継がれている

「左義長」をご紹介します。

別所町の左義長は戦前から行われており、約100年以上の歴史があります。町内や個人の厄除け・無病息災を祈願して、地元の青年団が中心となって行ったのが始まりで毎年1月15日に別所町入口の田んぼで行われています。

当初は町内の2箇所、互いに競い合いながら行っていたとのことですが、現在はその名残から大小2個のつづらを作っています。

つづらはわらを3～4メートルの高さまで積み上げ（小さいつづらは約半分の高さ）、周りにはわらで編んだすだれを巻き、その上には松の木、御幣（ごへい）を中心に火消しの飾り物や、子どもたちの書き初めや絵を竹の枝につるして飾り、家内安全・商売繁盛や学業成就を願うとのこと。お正月の飾りやしめ縄をもってこられる方や、左義長の火でお餅を焼いて食べると無病息災になるとの言い伝えがあることから、毎年多くの人出で賑わうとのこと。

年明けと共に壮年団を中心に準備にかかります。約200束のわらを使用するにあたり、以前は各家庭からの持ち寄りで購入していましたが、現在は農作業の機械化でわらが集まらず、わら縄を作っている業者などをお願いをしているとの事。

一時期、町内の諸事情で約10年間中断しましたが、ふるさとの古き良いものは残そうとの機運から、現在は若い世代を中心として、しっかりと受け継がれ別所町の冬の風物詩、更には片上地区の風物詩として、これからも永く引継がれる事を祈念したいと思います。



## H21.12月号掲載

日展入選作品 「流 露」



ご存知ですか、平成17年から日展に4回入選現代工芸美術家協会会友で吉谷町にお住まいの小野ヒロ子さんをご紹介します



小野さんについては、新聞等でも紹介されていますが、平成17年に日展に初出品で初入選、その後19年・20年・21年と連続入選、現代工芸美術展には毎年入選、他にも県美展では知事賞を受賞される等、素晴らしい活躍をされています。

昨年から、片上地区文化祭にも入選作を出品していただき、文化祭を盛り上げていただきました。



小野さんの陶芸との出会いは約10年前、退職を期にご主人からの勧めもあり、越前市の公民館の陶芸教室に参加してからだそうです。月2回の教室に通うようになり自分だけのオリジナルな作品を作りたいという思いと、作品(オブジェ)に自分を表現できるという魅力を感じたからだそうです。小野さんの作品は造形が七割、釉薬(色)が三割の黒一色です。タイトルを決めてから創作に入り、少しずつ形を変えたり線を変えたりするため、一個の出品作品が出来上がるまでに、よく似たものを3~4個作られるとか、土も20キロ~25キロを使い作陶…。窯の温度や線一本でも作品にとっても大きく影響するので、制作には心身共にとても慎重を要するとの事です。

初めて日展に入選された時は、ご本人はもとよりご家族の喜びのほうが大きかったそうです。ご家族の応援もあり、ご自身も「陶芸は元気の源で楽しくさせてもらっています。年を重ねてもいつまでも前向きに続けていきたいです」と仰っていましたが、工芸作家というよりも、むしろ何時も色んなアイデアを持ち続けておられる、とても気さくな感じの奥様でした。退職後、家庭の主婦という立場で陶芸を始められ、プロを凌ぐ活躍をされている小野さんに、心から拍手を送りますと共に、今後も益々のご活躍を期待したいと思います。

## H21.11月号掲載

今月は南井町にある片上神社に祀られている鯖江市指定文化財六体のうち、平成7年3月30日に有形文化財として登録された三尊を紹介します。

この三尊は鎌倉時代後期に作られた写真①木造十一面観音菩薩坐像（像高 39.5 cm）、②木造阿弥陀如来坐像（像高 25.0 cm）、③木造聖観音菩薩坐像（像高 37.2 cm）の三体であります。



十一面観音菩薩坐像  
（像高 39.5 cm）



阿弥陀如来坐像  
（像高 25.0 cm）



聖観音菩薩坐像  
（像高 37.2 cm）

三体が祀られている片上神社は、元の春日神社と白山神社を合わせて祀ったもので、三体の仏像は元は白山神社に、白山三所権現（はくさんさんじょごんげん）の本地仏（ほんじぶつ）として祀られていた。

白山三所権現とは、平安時代以降盛んとなった「本地垂迹（ほんじすいじゃく）」の思想に基づき、白山の御前峰、大汝峰、別山にそれぞれ祀られている神々、白山妙理大菩薩、大己貴神（おおなむち）、小白山別山大行事の本地仏（本来の姿）を十一面観音、阿弥陀如来、聖観音と定めたものであります。いずれもヒノキの一木造で、近くを見つめて坐る表情や姿態に、堅実な鎌倉時代の作風に通じる特色がみられ、鎌倉時代終わり頃の作品と推定される。小さな仏像であるが表情も締まり、均整のとれた体つきである。白山三所権現の三体揃った遺品は数少なく貴重なもので、神社の背後にある文殊山と白山の関係を伝える好例といえます。

他にも片上神社には、平成16年に鯖江市指定文化財となった木造の天部形立像、菩薩立像、大日如来坐像三体が祀られています。いずれも平安時代～鎌倉時代末期のもので、信仰の厚かった時代が偲ばれます。一年に4回、正月・春祭り・秋祭り・新嘗祭に扉が開かれます。

このほか、南井町には齋藤家にある実盛が植えたと言われ、鯖江市の天然記念物で広く知られている「ひいらぎの樹」や「南屋敷遺跡出土品」など、多くの鯖江市指定の文化財があります。往時を偲び機会があれば是非実物をご覧ください。

## H21.10月号掲載



今月は、**四方谷町岩伏遺跡**をご紹介します。

ご承知の方も多いと思いますが、県道徳光・鯖江線を吉谷町から北に向かい、四方谷町に入る三叉路のあたり（右上写真矢印）で、福井県の道路改良工事に伴い、福井県埋蔵文化財調査センターが平成7年8月から発掘調査を開始し、11月に入り縄文時代後期のかごや木の実が出土し、岩伏遺跡として当時全国的な話題となりました。

遺跡は四方谷川が平野部へ注ぐあたりで、地下3m～4mから縄文時代後期の土器が出土し、さらに発掘を進めたところ、食料となる木の実をいれた直径50cm～1m・深さ30cm～40cmの貯蔵穴が38基もあり、穴の中にはとち・どんぐり・くるみの実がぎっしりと詰まっていた。中身は腐っていたが、表面はいまでも芽を出しそうなきれいな茶褐色で、これだけ保存状態の良いのは全国的にも珍しいといわれた。

さらに300箱分に及ぶ大量の土器や木製品が出土、また木材をひも状のもので編んだ直径70cm・深さ55cmの木の実を入れるために使ったと思われるかごが、ほぼ完全な形のまま見つかった。

これら保存状態が良かったのは、遺跡全体が粘土で密封された状態となっていたため、腐敗を免れたといわれ、当時センターの調査委員からも「かごは三方町の鳥浜遺跡や鳥取県の布施遺跡からも出土しているが、これほど保存状況の良く完全な形で見つかった例はなく、大変貴重なもの」との事でした。

遺跡の現状は埋め戻されて県道・川・たんぼとなっていますが、近年多くの蛍が飛びかう話題の場所となっています。

文殊山を背景に、多分蛍も乱舞していたであろう山裾で、縄文時代を生きた当時の人々の生活に、思いを致す情緒あるスポットです。



縄文時代後期のかご



縄文時代後期の木の実

## H21.9月号掲載

今月は、大野町から「戦国の武将実盛公と大野町」ということでご紹介をいただきました。

斉藤別当実盛公と云えば、片上地区1番の歴史上の人物であり、生誕の地はお隣の南井町ですが、大野町にもゆかりがある所がいくつかあります。

昭和6年に発刊された「片上村誌」によれば、実盛公の菩提寺と伝えられている眞言宗大平山龍蓮寺（現・大平山親縁寺）が大野町の北方、今木出にあったとされ、近くには春日神社（今木宮）もあったとされている所から、今木出一帯は藤原氏の流れをくむ豪族、つまり斉藤家の菩提所ではなかったかと思われます。

もう1つは、町内には「御前」という字名や、「御前の森」「御前の水」といわれる場所と、屋号で「御前」と呼ばれている家が現在も存在するのですが、「御前の森」について昭和60年に片上小学校民話同好会によって発刊された「片上むかしむかし」には、源平時代の頃南井生まれの有名な武将斉藤実盛が平家の大將として出兵し、石川県の篠原で戦死後、奥方である「実盛御前」が源氏に追われる身となり、主人の実盛公が生まれ育った片上の地に逃げて来られ、大野の森に隠れ住んだ所を、「御前の森」と呼ぶようになったと書かれています。現在もその森の1角には、実盛公にかかわるとされる墓が安置されています。又、昭和45年認可の土地改良事業で圃場整備をしていた際に、土中から輪塔（眞言宗様式の墓）を発掘したのですが、発見された位置から考えて、実盛御前が亡き主人の為に墓を建立し、その墓を守りながら一人静に余生を送っていたが、長い年月でお守りする住人が無くなり、なんらかの事情で、川下の田に流されたのではないかと云う事で、村人が持ち帰り、村社である春日神社の一角に実盛公の墓として安置し、現在に至っています。



「御前の森にある実盛公にかかわる墓」



「春日神社にある実盛公の墓と思われる  
発掘された輪塔（眞言宗様式の墓）」

## H21.8月号掲載

今月のわが町じまんは

第18回「中川平太夫賞」を受賞されました 片上小学校です。

今月の「わが町じまん」は矛先をかえて、先に新聞報道もされましたが、“中川平太夫賞”を受賞された片上小学校から寄稿いただきました。17年に食育の指定を受け3年間、指定解除後も引き続き食育の推進に積極的に取り組み、この度の受賞となりました。元気で、明るく、たくましい文殊っ子の成長と、今後の更なる活動を祈念したいと思います。



### 『食育大切にしています。』

片上小学校は、「たくましく生きる子の育成」を教育目標にかかげて教育活動を行っています。平成17年度から3年間、文部科学省の「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」の指定校として研究実践してきました。

農村地帯にありながら農業体験をしたことのない児童も多くいた現状をふまえて、農業体験活動を食育推進の中心として取り組みました。これらの活動のために、畑の提供および農作業や調理実習などの手伝いで、保護者や地域の方々にはたくさんの協力と支援をいただき、現在に至っています。

植え付けから収穫までの畑の活動や調理体験などを学年ごとに計画し、収穫した作物は、生活科、総合的な学習の時間の授業や家庭科の授業に活用する他に、学校給食にも取り入れました。その結果、野菜が大好きな児童が増え、食べ残しがほとんどなくなりました。

また、家族の会話が増えたり、あいさつ運動で地域とのつながりが深まったりしました。保健室を利用する児童数や欠席者数も減少しました。

今後も、収穫物を使った親子活動や、公民館と連携した活動も行いながら、食育活動を推進して、「かしこく・やさしく・たくましい」文殊っ子を育てていきます。

# H21.7月号掲載

わが町乙坂今北の自慢は、ご存知の方もいると思いますが、

## 『今北山古墳群』です。

磯部・弁財天古墳群と共に16年5月鯖江市の指定文化財となりました。16年11月片上・北中山両地区の有志からなる保存会を立ち上げ、雑木伐採・下草除草などの作業を行うと共に、18年3月には3古墳を紹介したパンフレットを作成、「国指定史跡」を目指してPRに努めて来ました。

特に今北山古墳群は、比較的規模の大きい23基の古墳からなり、中でも北端に位置する1号墳は全長76mの前方後円墳で、丹南地域で最大の規模のものであり、3古墳群の盟主的な存在と言われております。去る19年7月、文化庁に「国指定史跡候補地」という前提で現地視察を依頼し、有力な候補地として取り上げて頂きました。

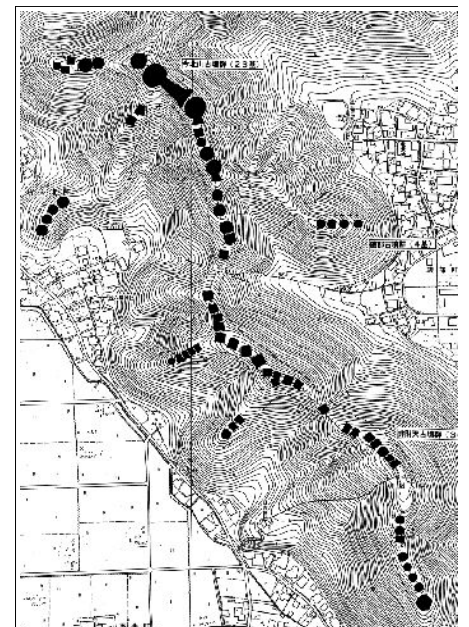


今後測量2年、発掘調査2年～3年を行い、平成24年度を目途に調査報告書を作成し、国指定の是非が論議されることとなりました。

北中山地区川島町にご在住で、かつ保存会のメンバーでもある福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館特別顧問の青木豊昭先生の弁によれば、「県内幾つかの国指定史跡から見ても、なにも遜色のない遺跡であり、国指定は大変有力である」とのお言葉もあり、力強い限りであります。順調に推移すれば、30年工事完了、31年管理・活用というスケジュールとなっています。

保存会発足当時（16年11月）、まだまだデスクプランの段階で有りましたが、保存会・関係各位・地域の皆様のご尽力やご支援ご協力により、昨年度から地形測量が始まり、今年度で測量は終了するなど、実現に向けて着々と作業が開始されており、誠に喜ばしい限りであります。

約10年後、王山古墳に負けず劣らずの立派な素晴らしい史跡が誕生すれば、乙坂今北町はもとより片上地区・北中山地区の自慢の史跡であり、地域振興にも大いに寄与するものと、今から期待しているところです。



今北山古墳群・磯部古墳群・弁財天古墳群分

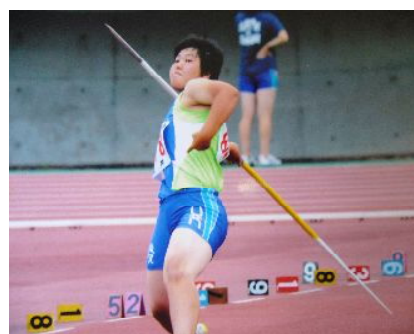
## H21.6月号掲載



今回の「わが町じまん」は吉谷町からの紹介です。昨年行われた「第63回国民体育大会 おおいた国体」に出場し陸上少年女子「やり投げ」競技3位に入賞された【島田 稚佳さん】です。

島田稚佳さんは、小学校1年からお兄さんと一緒に少年野球を始め、6年生の時にはピッチャーやサードをまかされる等、男子顔負けの活躍をされると共に、練習は休まず熱心に参加したそうです。

東陽中学校では、先生のすすめもあり「砲丸投げ」をやり、北信越大会や3年生の時には「ジュニアオリンピック」にも出場し、好成績を挙げられました。



陸上競技を続けるため、高校は敦賀高校に入学、適性のある「やり投げ」種目に重点をおき、早朝の練習を行うため毎朝5時40分のJRで通学、テスト期間中以外は1日も休まず練習をこなしたそうです。

好不調、記録も伸びず色々と葛藤の時期もありましたが、監督やコーチの叱咤激励もあり、自分なりに気持ちの整理もし、高校生最後の「インターハイ」に出場し5位入賞、続く「おおいた国体」のやり投げ陸上少年女子の部で、堂々3位という輝かしい成績をあげられました。

少年野球で基礎体力や投てき力をつけ、中学・高校では誰にも負けず1日も休まず熱心に、辛抱強く練習を続けた成果であり、心から拍手を送りたいと思います。

今春大阪体育大学に入学し、今後の活躍を目指して頑張っておられます。

お家の方から見た稚佳さんは、辛抱強く頑張り屋さんで弱音ははかず、練習から帰ってくると利き腕を氷で冷やすなど厳しく自己管理もされていたとの事です。

今後もお体に気をつけて、ますますのご活躍を祈念いたしております。



# わが町じまん

## H21.5月号掲載

今回から毎月「わが町じまん」というコーナーを設けさせて頂きました。毎月、各町内での話題等をご紹介していきたいと思っております。町内の行事や、人物、建物、自然など、どんなことでも結構です。皆さんに自慢したい事やお知らせしたい事がありましたら、町内公民館長さん又は、片上公民館までお知らせ下さい。

第1回目は吉谷町青葉台からの紹介です。

福井春まつりで「お市の方」を務められた、【藤川 貴子さん】です。



藤川さんは、第17代お市の方グランプリ・福井市キャンペーンレディーに選ばれ、2年間の任期で福井市関連の行事やイベントに参加され、PR活動は県内外でおこなわれています。一日署長や、鷹巣、鮎川海水浴場のポスターのモデルとしても活躍されておられます。

応募のきっかけは、県外に出で改めて福井の魅力を感じ自然を通して環境や催し事の重要性に気づき、地元に貢献したい、いろんな事に挑戦し自分を高めたいと思ったからだそうです。

テレビ、ラジオ、ステージでのPR活動では、原稿がないため、臨機応変に対応できなければならず、又厳しいご意見も容赦なくあり日頃から自己研鑽に務めておられるそうです。

『グランプリの重圧に勝てたのは応援して下さった皆様のおかげです。また、乗り越えた分だけ自信につながりました。任期終了まで1年弱ですが、応援よろしくお願ひします』との事です。

1995年度の片上小学校の卒業生で、26歳のお嬢さんです。

これからもご活躍を祈念いたしております。